

膵臓の病気を見逃さない

タイトルの“見逃さない”には2つの意味が込められています。急性の膵臓疾患はしばしば重篤になります。急性腹症を診た場合、急性膵炎を鑑別に挙げない臨床医はいないでしょう。迅速で適切な対応には、症状、診察所見、検体検査データ、画像所見のサインを“見逃さない”ことが大変重要です。特に、検体検査データは重症度を反映して明確に変動するので、その正しい理解が必要です。

一方、慢性の疾患である慢性膵炎や腫瘍は、メタボなどの生活習慣や高齢化を受けて、今後、さらに問題になってくるでしょう。膵臓はその存在位置から、異常を“見逃さずに”発見することがしばしば困難です。これらの疾患の診断には画像検査がより期待されています。本特集を読んでいただき、まず、腹部エコーを中心とした最近の状況を理解してください。理解が広まりつつあるIgG4関連疾患と、膵臓の古典的検査ながら解決すべきことが残されているアミラーゼ、リパーゼも取り上げました。

山田俊幸(自治医科大学臨床検査医学)